

ロシア留学体験レポート

新潟国際情報大学
国際学部国際文化学科2年
21018010 石山希

はじめに

ロシア留学を通して、数えきれないほど多くのことを学んだ。その中でも特に印象に残っていることについて述べていく。

1 ロシア人の優しさ

ロシア人というと、どちらかといえば冷淡なイメージを持つ方が多いと思う。「恐ろしい」と「ロシア」を掛けた「おそろシア」というシャレのイメージが強いからだろうか。しかし、私たちが出会ったロシア人の方々はとても親切で、私たちに優しく接してくださいました。ロシア人の優しさを象徴するエピソードを紹介する。留学当初のある日、私たちは、ヤッピというスーパーマーケットに行こうとしていたのだが、慣れない土地であることもあり、道に迷ってしまった。困っていると、偶然通りかかったタクシーの運転手さんがお店まで乗せてくれたのだ。料金を支払おうとすると、「お金はいらないよ」と言ってくれた。運転手さんが運転していた車は日本車で、カーナビも日本語にしか対応しておらず、操作方法が分からず、困っている様子であった。そこで私たちが簡単に操作方法について教えるととても喜んでくれた。お互いに助け合うことの大切さを学んだ。その他にも、ロシアの人々の情の厚さを感じられる場面が多数あった。彼らの気遣いに何度も助けられた。彼らの優しさを見習い、無意識的に気遣える人間になりたいと感じた。

また、ロシア人はあまり笑わないというイメージがあったが、実際知り合ったロシア人の友人たちはよく笑っていたように感じる。仲良くなると見せてくれる笑顔が本当に素敵だった。ロシア人は本当に笑いたいときに思いっきり笑うという印象を受けた。

2 ロシアでの生活について

留学中は、寮で生活した。私のルームメイトは新潟国際情報大学の学生であったため、共同生活をする上での大きな壁はなかった。放課後に一緒に授業で習った内容を復習したり、時に音楽を聴いて息抜きをしたりと、ルームメイトは私にとって心の支えとなっていた。共同生活においては、互いを尊重し合うことが大切であると感じた。また、寮で知り合った韓国人留学生の方がとても良くしてくださいました。日本語とロシア語どちらも流暢に話せる方で、一緒に出掛ける機会も多く、そのたびに新しいロシア語を教えてくださいました。彼もまた今回の留学において私たちの支えとなっていた。本当に彼には感謝している。

寮生活中に何度かハプニングがあった。まず9月と10月に数回シャワーのお湯が出なくなるがあった。おそらくメンテナンスの影響であると考えられるが、寮の管理人さんも詳しく知らない様子だったため不安になった。冷たいシャワーでなんとか乗り切った。真冬でなかったことが幸いであった。また、ロシアは硬水であるため髪の毛のダメージと肌の乾燥に悩まされた。髪の毛のケアと保湿を徹底した。停電も何度かあった。また、部屋によって照明が暗い場合があるため、読書灯を用意することを勧める。これらのハプニングを通して、日本で水や電気の供給が安定した生活を送っていることの有難みを感じた。特に、トイレは日本の誇る文化であると感じた。

寮内の設備について言及する。キッチン、各階に設置してあり、共同で使用することとなる。23:00まで使用できる。管理人さんから使用後は掃除をするように何度も注意された。19時ごろはキッチンが混むため、時間をずらして使用することが望ましい。洗濯機を使用する際は、管理人さんに90ルーブルを支払う。節約のため、ルームメイトと一緒に週一ペースで洗濯を行った。

ウラジオストクに気候について言及する。9月、10月上旬は涼しく非常に過ごしやすい。半袖で過ごすことが多かった。10月の後半になると急に気温が下がる。気温が下がっても、すぐ暖房がつくわけではないため風邪をひかないように注意する必要がある。11月に入る前に、冬用のコート、手袋、マフラー、帽子を用意することを勧める。11月6日に寮と大学内の暖房がついた。ロシアでは、熱湯が流れる管を張り巡らせたセントラルヒーティングという装置で部屋を暖める。その暖房は自分で温度調整することはできない。12月の気温はほぼ毎日氷点下であった。氷点下15度という寒さを経験すると、氷点下一けた台になると暖かく感じるようになる。ロシアの冬は極寒であるが、室内は非常に暖かい。

3 会話クラブ

日本に帰ったときにぜひ取り入れたいと感じたものの一つが会話クラブである。会話クラブは、主に日本語を学ぶロシア人学生とロシア語を学ぶ日本人留学生が交流する場である。毎週金曜日に18:30からウラジオストク駅近くのRepublicというレストランで行われる。会話クラブの魅力は、若者の集いの場であること、勉強という感覚なしに楽しく言語を学ぶことができるということにあると感じる。食事をしたり、お酒を飲んだりしながら自由に交流を図ることができる。同世代の集まりであることから、気軽に話すことができた。日本のアニメーションや漫画、音楽などのファンの方が多く、共通の趣味に関する話題で盛り上がった。地元について問われることが多かったため、その都度新潟のアピールをすることができた。新潟には、このような場は少ないのではないかと思う。そのため、ぜひ会話クラブのような新潟でロシア語を学ぶ学生と新潟で日本語を学ぶロシアの方の交流の場を築いていきたいと考えている。

最後に

この4ヶ月の間、環境にも恵まれ、日本では体験することのできない留学ならでの体験をすることができ本当に良かった。しかし、事前に日本でもっと語彙力を身につけていたら、よりスムーズにロシア語力を向上させることができたのではないかと思う。留学中は、韓国人留学生とのロシア語力のギャップに悩まされたり、ハプニングに見舞われたり、時に上手くいかないこともあったが、それ以上に語学力や対応力などこの留学で得たものの方が大きいため、留学に行って良かったと心から思う。より多くの人に、異文化に触れてもらい、新たな発見をしてもらいたい。